

#05\_慣れてきたかも…この感じ

「んちゅっ…ふう、はあ、んっ…ちゅう、ちゅう♡ ちゅぷっ…んんっ♡」  
「ちゅりゅりゅ、れるれる、れろちゅっ♡ はあ、ふう♡ ん～ちゅっ♡」  
「れる、れる、はあ、はあ、れろれろ、れるむちゅっ♡ んう♡ ちゅうう♡」  
「んっ、ぷふう、はあ、はあ…はあ…♡」

「んっ…なんか、あんたとうしてキスするのも、日課になってきたね…」  
「別に…嬉しいとか、そういうのじゃないけど…」  
「でも、嫌じゃない…」  
「あんたは、多分…他のヤツとは違う気が…するし」

「ん、なんでもない…」

「それよりも、キス…まだ終わりじゃないでしょ？」  
「もっと、してよ」

「ふう、ふう…♡」  
「んっ…ちゅう♡ ちゅう、ちゅう…んふ♡ ちゅう…はあ、はあ…んっ！ んちゅう…」  
「ちゅぷ、ちゅりゅ…んああ♡ れるれる、れろちゅっ、れるるれ…んんう♡」  
「れろれろ、れる、れる…れるちゅう～♡ んう…♡ れるれるれるう～♡」

「ぷはあ…♡ はあ、はあ……ごめん」  
「今のは…その、嫌な気持ち、なくそうって思ったキスだったから…」  
「その、なんていうか…真摯じゃなかったかも…」

「な、何？ べ、別にいいでしょ！」  
「本当に…その、あんたは、その…よくしてくれるから…」  
「ちゃんとそれには応えないとって、思ったの！ それだけ！」

「んっ…んちゅう♡ ちゅっ♡ ちゅう…♡ はあ、んう♡ んちゅ、ぷちゅう♡」  
「んう、れるれる、むちゅっ…はあ、ふう、もっと、舌…絡ませて♡ れるれるれる…れろれる…んっ♡」  
「んう♡ れるれる、気持ちいい♡ れるれる、れろれろ、れるれる…！」  
「んう、れるれる、れろろお…♡ んう、ちゅううう♡」

「ふう、ふう…♡ そういえば…なんだけどさ…」

「また、セックスしたいとか、あんた思わないの？」

「私…そんな気持ちよくない？ それともしたくない理由でもあんの？」

「んっ…まあ、大体察しはついてるんだけどさ…」

「私が、辛そうにしてるの…嫌なんじゃない？」

「まあ、昔は色々あったからさ…あんまいい思い出とかもないし？」

「でも…」

「んっ…ちゅう♡」

「ふう、ふう…♡ キスと同じでさ…あんたなら、私…全然嫌じゃない」

「というか…んっ…」

「そろそろ気づけばいいのに…」

「んっ…！ ふう…」

「はあ、ふう…あんたが教えてくれるって言ってた愛って、その程度なんだ～」

「私が辛そうにしてるのもさ…あんたの愛とかってので、なんとかしてくれるもんじゃないの？」

「あーあー、期待してたのになー」

「ふう、ふう…」

「んっ…教えてよ。あんたの愛」

「それで、全部…嫌な思い出とか、全部全部…上書いてよ…」

「お願い…」

「んっ…ちゅっ、ちゅう…♡ はあ、んんっ！ んちゅう、ちゅう…」

「はあ、ふう…♡ んっ…♡」

「んっ…待つて…！」

「服は…自分で、脱ぐから…ふう、ふう…あと上、脱ぎたくない」

「ん、むしろ…あんたの、脱がせてあげる…」

「ふう、んちゅっ♡ ちゅう、ちゅう♡ はあ、ふう…んちゅ、れるれるれろ…」

「れるちゅう、んちゅう、ふぁっ、んう、ちゅう♡ ふうふう…」

「んっ、ちゅう～ちゅうう～♡」

「ぷふう、はあ…はあ、んっ…ふう…」

「んっ…はあ、ふう…待ってね、今、脱ぐから」

「んっ…はあ、ふう♡」

「ん、こんだけ濡れてるんだよ…キス、だけで♡」

「ほら、早く…来て？ あんたの愛、教えて？」

「んっ…♡」

「はあ、ふう…ん、あんたの身体…こうしてギューってすると、安心する…♡」

「んう、なんでだろうね…？ こんな事、ほんと、なかったのに…」

「はあ、はあ…そろそろ、挿れる？ お腹に固いの、当たってるし」

「ん…じゃあ、今日はさ…この体勢のまま、してよ」

「その…抱きしめられてたら、安心して…」

怖いのとか、嫌な感じのも、ないような気がするっていうか…」

「あんたを近くで、感じたいの…だから、ね？」

「ん…ありがと」

「ふう、はあ…ふう…」

「んう…っ♡ はあ、はあ…ん、入って…来たあ…♡」

「はふう、はっ、はあ、ふっ…んんっ♡」

「んっ…？ 何見てんの？」

「私は、見ての通り…んっ、なんだけど…」

「痛いとか、そういうのも…ないし。だから、んっ…♡ 安心して？」

「でもお…」

「こうして、ギューってしながらしたら…キスとかも、して、動いてもらったら…」

「もっと、良いかも？」

「ふう、ふう…」

「んっ…ちゅっ♡ んふっ、ちゅう、はあ、はあ…んっ！ んちゅっ！ んっ！」

「んう♡ ちゅう、ちゅぶ、んちゅう、れるれる…はあ、ふう、んっ！ ちゅっ、ちゅっ…」

「んっ…ちゅう♡ やっぱり…気持ち…いい♡」

「はあ、んっ！ ああっ…んっ！ んっ！ んちゅう、ちゅう♡ ちゅうう♡ んああっ！」

「んっ、んちゅっ♡ んんっ、ちゅう、れるれる♡ はあ、んあっ♡

はあ、ふう…んちゅう、れるれる、はあ…んう♡」

「はあ、はあ…んっ、あっ…そこっ♡ いい、気持ち、いいっ♡ ふう、ふう…んんっ♡」

「はあ、ちゅっ、ちゅうう♡ んっ、んっ…♡ はあ、んう～っ♡」

「ねえ…んう、あんたはさ…んう、んっ…どう？ なの？」

「私との…セックス、んっ、はあ、あっ…気持ちいい？」

「んんっ、はあ、はあ、ふっ…んっ、んう…はあ、はあ♡」

「そ…♡ なら、んっ♡ 良かったっ…♡」

「んう…私だけだと…はあ、はあ…申し訳…ないからっ…んんっ！ ねえ♡」

「2人で、気持ちよく…なれてるならっ…あっ！ ああっ！ 良かったあ♡」

「んっ！ んあっ！ また、違うとこ…あたってえ♡ ふうう♡ んんっ♡」

「ふう、んっ…んっ、どうしたの？ そんな、力強く…抱きしめて…さあ♡」

「変なの…♡ はあ、ふう…ああっ、んっ♡ んう、んん♡」

「んっ、それよりもさっ…んっんっ♡ ふう、ふう…」

「キス、止まってるぞ♡ はあ、はあ…」

「んっ…♡ んちゅっ♡ んう♡ んっ、ああ…♡ はあ、ちゅう♡ んちゅう、ちゅうう♡」

「ふう、ふう…んんっ♡ ちゅう、ちゅうう♡ ちゅぽっ♡ んちゅう♡ ちゅう♡」

「れるれる、れろちゅう♡ えへ♡ れるれる、れろれろ…んんっ♡ れるれるれろ～♡」

「いい…♡ キス…んちゅう♡ れるれる…舌、絡ませるのも…♡ いい…♡」

「んんう、れるれる、れろむちゅうう♡ れろ、れろ、れるう、れるう♡」

「ふうう♡ はあ、んっ♡ はあ、はあ…♡ れるれる、れろれろ…♡」

「ふう♡ もう、んちゅう♡ ちゅう♡ れるれる、れろちゅう♡」

「気持ちいいの…♡ はあ、はあ…んっ♡ …んっ♡ 上がって、来ちゃう♡」

「ふうう…んう、はあ、はあ♡ あんたも…そろそろ…？ なのかなあ♡」

「んっ、ちゅう♡ れるれる…ぷちゅう♡ ふうっ…だって…♡」

「そんな、気が…するから…んんっ！ んちゅうぷっ♡ れるれるれる…♡」

「んんっ♡ ぷふう♡」

「はあ、はあ…♡ んっ♡ んんう…♡」

「また、一緒に…イコ？ 前みたいに…さ♡」

「あれ…すっごく良かったから…また、一緒に…イキたいの…♡」

「もう、ふう、んっ♡ 辛いのかも全然、無いから♡ 強くしても…気持ちいいからあ…♡」

「だから、お願い？ 最後は♡ んっ…あんたが一番気持ちよい形でえ…♡」

「私も気持ちよくして…んんっ♡」

「愛ってやつを…おっ…！ んっ！ はあ、はあ…私に…教えてえ♡」

「んっ…ちゅううう♡」

「ちゅう♡ はあ、はあ…お願い♡」

「んっ！ んんっ！ ああっ！ きたっ…きちやあ…♡」

「はあ、はあ、んんっ♡ んあっ！ んっ！ あんっ！ ああっ！ あっ！ ああっ！」

「はあ、はあ…あっ！ んっ！ んんっ！ ああ、あっ！」

「ふうっ♡ ふうっ♡ んっ！ あう、あっ…んっ！ はあ、ふうっ！」

「んっ…♡ んんっ！ んちゅう、れるれる、れるちゅう♡ ふう♡ ふう♡ れるぷちゅっ♡」

「んう、れるれる…♡ んっ！ そろそろ、イク…♡」

「イク、イク♡ んんっ！ れるれる、れるむちゅう♡ ぷはあ…♡」

「ふう、ふっ♡ んっ！ あんたも…一緒に…イコっ♡ んっ！ イコ、イコう？」

「んちゅう…れるれる、あふあ…イク、イク…れるれる…イックううう♡」

「んんっ♡ んんう♡ んっ！ んっ！ んんんんう～～♡」

「んう、れる、れる…んう♡ んう♡ れるれる…んっ♡ ふうう♡」

「ぷはあ…はあ♡ はあ♡ ふうう…♡」

「はあ…♡ んっ…今日も、たくさん…出すじゃん♡」

「はあ、はあ…んっ…はあ、はあ…セックスって、こんな…幸せになるもんだったんだね…」

「ん、結構、いいかも…♡」

「でも…いいのかな…？」

「…別に、なんでもない」